

日露青年交流センター

2018 年度日本語教師派遣事業

帰国報告書



Бурятский
государственный
университет
имени Доржи Банзарова



赴任地：ロシア連邦ブリヤート共和国ウラン・ウデ市

ブリヤート国立大学

Бурятский государственный университет

向井大樹

1. 年間業務日程

2018年8月27日	現地到着、諸手続き開始
9月1日	着任
9月3日	前期授業開始
12月17日～31日	前期試験期間（ザチヨット）（ザチヨット以外の授業は通常通り実施）
2019年1月1日～8日	正月休暇
1月9日～26日	前期試験期間（エグザメン）
1月27日～2月10日	冬季休暇（旧正月休暇）
2月11日	後期授業開始（実習のあった3年生のみ3月14日～）
2月11日～28日	前期試験追試期間
3月4日～7日	日本語の週間
4月下旬～5月中旬	4年生授業終了及びザチヨット期間（担当はなし）
6月3日～14日	1～3年生後期試験期間（ザチヨット）（ザチヨット以外の授業は通常通り実施）
6月15日、21日、26日	4年生卒業国家試験期間（15日のみ担当あり）
6月17日～29日	1～3年生後期試験期間（エグザメン）
6月30日～	夏季休暇

2. 赴任校の概要

①大学概要

- 大学名：ドルジ・バンザロフ記念ブリヤート国立大学
Бурятский государственный университет имени Доржи Банзарова
Banzarov Buryat State University
- 学長：モーシキン・ニコライ・イリーチ
Мошкин Николай Ильич / Nikolai Ilyich Moshkin
- 学部名：東洋学院 / Восточный институт / Institute of Oriental Studies
- 所在地：670000, Республика Бурятия, г. Улан-Удэ, ул. Смолина, 24а
24a Smolin st., Ulan-Ude, Russia, 670000
- 電話番号：+7 (3012) 297-170

②受け入れ先

- 国際部担当者：カウロヴァ・エレナ・ミハイロヴナ
Каурова Елена Михайловна / Kaurova Elena Mikhailovna
+7(3012)21-18-64

- 日本語コース責任者：ボトーエフ・イーゴリ・コンスタンチノーヴィチ
 Ботоев Игорь Константинович / Botoev Igor Konstantinovich
 准教授 / Доцент / Associate professor / +7-914-052-9219

③日本語コース概要

- 日本語コース設置年：1992年
- 日本語コースカリキュラム

日本語を勉強している学生は、日本語コース専攻の学生（必修科目・主専攻）と一部の中国語コース専攻の学生（必修科目・第2外国語・2年次から）である。主専攻の学生は1年生～4年生まで4年間、ほとんどの授業が日本・日本語関連の授業である。第2外国語として日本語を学ぶ学生は中国語が主専攻の学生で、日本語・韓国語・モンゴル語のうちから希望の言語を1つ選択しなければならない。

このほか、夜間に地域の方向けの公開講座が開講されている。（2018-19年度後期は参加希望者不足のため休講。）なお、こちらを担当する教師は、大学で通常行われている授業を担当する教師とは別枠で雇われたロシア人教師である。

- 日本語履修学生数（2019年5月末時点）

日本語コース専攻

学年	人数	レベル	赴任者担当
1	17（うち1人休学中）	初級～初中級	前期/後期
2	14（うち4人留学中）	初級～中級	前期
3	8（うち5人休学中）	初級～中級	前期/後期
4	9	初中級～中上級	—
計	48	—	—

※このほか、長期間休学中で不在の学生が2～4年生扱いで数人。

第2外国語としての履修者数

学年	人数	レベル	赴任者担当
1	—	—	—
2	12	初級	—
3	9（前期のみ）	初級	—
4	8	初級	—
計	29	—	—

※報告者の担当はなし。来年度1クラス担当予定。

※1年生は第2外国語の授業はなし。2年生から開始。

■ 日本語教師数（2019年6月14日現在）：

東洋学院極東言語職員室 ロシア人教師：4人 日本人教師：1人（報告者）

夜間公開講座担当教師 0人（前期：ロシア人教師1人）

■ 学生の進路

進学（国内の大学院、日本の大学及び大学院）、旅行会社、日本関連企業、日本のホテル、警察、税関職員、軍入隊、その他。

3. 赴任者の日本語教育業務

2018-19年度年間シラバス

1年生・聴解

コマ数	前期：隔週90分×1コマ 後期：週90分×1コマ
教材	通年：『みんなの日本語第2版初級Ⅰ』『聴解タスク（みんなの日本語第2版初級Ⅰ）』、自作プリント、PPT 後期のみ使用：『みんなの日本語第2版初級Ⅱ』『聴解タスク（みんなの日本語第2版初級Ⅱ）』『初級で読めるトピック25（みんなの日本語第2版初級Ⅰ、Ⅱ）』
活動	通年：『みんなの日本語』の「会話」の部分の聴解、『聴解タスク』や『初級で読めるトピック25』からの聴解、該当の課の文法復習 後期のみ実施：日本のテレビCMの聴解
評価	前期：ザチョット（合否評価のみ） 後期：エグザメン（5段階評価、2以下は不合格） どちらも、平常点（出欠、授業態度、提出物状況）、試験の点数から総合的に判断。 試験は聴解テストと文法テストの2段階で行う予定。
所見	人数は前期開始時点で18人、後期開始時点で17人と多いクラス。また、ブリヤート人、ロシア人のほか、アルタイ共和国やトゥバ共和国、マリ・エル共和国、中国、カザフスタンなどからの学生がいて多民族のクラスでもある。前期は授業が2週間に1回しかなかったことにより、毎回該当の範囲を終わらせるだけで手一杯であったが、後期は週1回に変更になったことで、文法の復習を含めても余裕をもって色々な聴解のタスクを行えるようになった。全体的に少し大人しめで、個人や少人数のタスクで黙々と力を発揮するクラス。

1年生・会話

コマ数	後期：週 90 分×2 コマ
教材	自作プリント、PPT 『コミュニケーションのための発音レッスン』
活動	プリントを使つての会話文の作成（個人→ペア）、作成した会話文の確認、会話文の練習、発音の導入、練習
評価	ザチョット（合否評価のみ） 平常点（出欠、授業態度、提出物状況）、試験の点数から総合的に判断。 試験は、くじで授業で扱った会話のお題を選択し、お題に沿った会話を作る方式。
所見	クラスは前項の「聴解」と同様のクラス。 間違えることを恐れる学生が一定数いるため、どうすれば間違いを恐れずに自分の言葉や意見を発話できるか、ということ念頭に授業を進めてきた。授業後半はプリントの会話をアレンジしたり、複雑な文形を使って応答を考えたりする学生が増えた。ただ、プリントには新たに習得した文形を使って面白い答えを書いているが、発表のときには無難な内容に差し替える学生もいるため、「どんなことを言っても大丈夫だよ。間違えても大丈夫だよ。」という雰囲気をつくっていきたい。

2年生・聴解

コマ数	前期：週 90 分×1 コマ
教材	『みんなの日本語第 2 版初級Ⅱ』『聴解タスク（みんなの日本語第 2 版 初級Ⅱ）』 『初級で読めるトピック 25（みんなの日本語第 2 版初級Ⅱ）』 自作プリント、PPT
活動	『みんなの日本語』の「会話」の部分の聴解、『聴解タスク』や『初級で読めるトピック 25』からの聴解、該当の課の文法復習、会話のタスク
評価	エグザメン（5 段階評価、2 以下は不合格） どちらも、平常点（出欠、授業態度、提出物状況）、試験の点数から総合的に判断。 試験は聴解テストと文法テストの 2 段階構えで行った。
所見	人数は担当した前期で 15 人。（1 名は前期終了後、ブリヤート語コースに転籍した。） 男女比 2：1 と珍しく男子が多いクラス。男女ともに積極的に発言や発表をする学生が多く活気がある。そのため、文法復習の際は答えが複数出るような問題を作り、いろいろな意見を述べてもらうなどした。また、控えめな学生にも発言するチャンスを作るため、指名する場合と一斉に答えを求める場合との使い分けに気をつけた。試験の成績もほとんどの学生が良好だった。

3年生・口頭・筆記演習

コマ数	前期：週 90 分×2or3 コマ
教材	『まるごと 初中級 A2/B1』 自作プリント、PPT

活動	『まるごと』の内容、『まるごと』の内容に関連した会話や作文のタスク
評価	エグザメン（5段階評価、2以下は不合格） どちらも、平常点（出欠、授業態度、提出物状況）、試験の点数から総合的に判断。 試験は聴解テストと文法テストの2段階で行った。
所見	学生の人数は前半は5人、後半は6人。途中で病気や復学などで学生の入れ替わりがあった。前半は出席率が壊滅的で出席人数が2~0人のことも多々あり、授業の進め方にとっても悩んだ。後半出席率が回復してからもなかなかやる気が出ない学生が多く、タスクがなかなか進まないなどした。試験の結果も散々で、4人が追試を含め不合格で強制的に1年間の休学となった。 ただ、自身の授業の進め方が特に序盤は安定しなかったり、学生に考えさせることを重視しすぎて説明が足りていないところもあったりしたため、学生のやる気をそいでしまった部分もあったと思う。後期に向けて猛省した。

3年生・読解

コマ数	後期：週90分×1or2コマ
教材	自作プリント（日本のwebニュース、webサイトから作成）、PPT
活動	日本のwebニュースから作成した読解問題、問題に関連した情報をインターネット上から集め発表するタスク
評価	エグザメン（5段階評価、2以下は不合格） どちらも、平常点（出欠、授業態度、提出物状況）、試験の点数から総合的に判断。 試験は読解問題とインターネットから情報を探すものを出題。
所見	後期から復学した2人が中心の3人のクラス。（留学から帰国した1名は病気で欠席しがち。）一時的に欠席が多い時期もあったが、基本的にまじめで明るいクラス。ただ、1年休学後の復学のため、語彙や文法がかなり抜け落ちている。そのため読解問題の答えの確認時は、語彙や文法事項についても再確認しながら行っている。

3年生・会話

コマ数	後期：週90分×2コマ
教材	自作プリント、PPT
活動	プリントを使っての会話文の作成（個人→ペア）、作成した会話文の確認、会話文の練習、会話文のテーマに関連した発表タスク
評価	エグザメン（5段階評価、2以下は不合格） どちらも、平常点（出欠、授業態度、提出物状況）、試験の点数から総合的に判断。 試験は、くじで授業で扱った会話のお題を選択し、お題に沿った会話を作る方式
所見	クラスは先述の読解と同じクラス。読解と同様、一時的に欠席が多い時期があった。学生2人の仲が良くいろいろ話し合いながら会話文を作っている。1年生とは対照的に間違えることを恐れずにいろんな表現を試して話している。テーマからやや脱線して会話が続くことも多いが、積極的なクラス。

個人指導・課外指導

- 日露友好シベリア横断列車プログラム：4年生担当企画の進行、原稿の確認。(2018年9月)
- 教師の日：報告者の代わりに授業をすることになった4年生への指導。(2018年10月)
- 日本語の週間：前任の先生とのskype会話のセッティング、アニメのアフレココンテストの企画・実施(2019年3月)
- 東シベリア弁論大会：出場学生のスピーチ原稿の添削、発音・スピーチ指導(2019年3月～4月)
- 卒業試験対策講座…4年生の卒業試験の口頭論述試験について、学生が事前作成した課題文の添削・指導を担当した。(2019年6月)

反省点・今後の展望

前期は赴任してからようやく時間割が明らかになったため方針がまとまらず、授業を行う中で大幅に軌道修正をせざる得ない場合があり、授業に混乱をきたすことがあった。後期は冬期休暇前に時間割の把握方法を確認し休暇中に準備を進められたため問題は起きなかったため、来年度の前期も早めに時間割を把握し準備に取り掛かりたい。

学生に考えて意見を発表させるタスクでは、事前の説明、動機付けが不十分で消化不良で終わることが前期を中心に多かったため、事前に目的・内容をはっきりさせたうえでタスクを作りたい。

また、「教師のビリーフ・やりたいこと」を優先し「学生の要望・需要」を置き去りにしてしまうことが何度かあった。大学院などでこれまでに教わったことを試そうとしても、ここはロシアで様々な面で前提が異なることが多い。授業を考える際に「学生の要望・需要」が何なのかを1番に考え、そのうえで効果的な授業を組み立てられるようにしたい。

4. その他の業務

- 翻訳確認作業…学会の挨拶文、ガイドブック、日本企業へのプレゼン資料、試験問題の日本語訳等の確認。(随時。2か月に1案件ペースであった。)
- 日本の選挙制度についてのプレゼン…学院長から依頼を受けて、ブリヤート共和国議会堂で行われた共和国の青年会議にてロシア語で発表した。(2019年3月)
- 卒業試験出席…(2019年6月)
- 職員室の会議出席…随時。1度この場で、日本で通う大学院での研究テーマについての発表も行った。

5. 青年交流

- 2018年9月…アルバート通りの広場で行われた日中韓蒙露のボードゲームのイベントに参加。
- 2018年9月…日露友好シベリア横断列車プログラムで大学に来られたパフォーマーの方々と大学で交流。準備や大学内のイベントで誘導、通訳、学生のサポートなどを行った。
- 2018年10月…市立図書館で行われた日本文化イベントに参加。日本の年中行事についてのプレゼンとクイズを、市内の高校生や専門学校生を対象に行った。
- 2018年11月…教育学部の国際イベントに参加。日本の教育制度に関するプレゼンの後、授業の時間までワークショップに参加した。
- 2018年11月下旬～12月…夜間の日本語公開講座に日本人留学生とともにボランティアとして参加。受講生の話し相手になったり、ともにワークショップを行ったりなどした。
- 2019年2月…卒業生が教師をしている語学学校のイベントに招かれ参加。参加者の方とともにワークショップを行ったり、日本の今についてお話し、その後参加者の方と話し合ったりした。
- 2019年6月…プーシキン広場で行われたプーシキン生誕220周年記念イベントに参加。日本語で詩の朗読を行った。

6. 任地の生活事情

①電気・水・温水の供給状況

どれも安定している。電気については1度だけ1時間ほど寮全体のブレーカーが落ちたことがあったのみ。温水については5月に2日間、事前予告があったうえで止まった。6月にも1週間止まったが、この時は予告がなくインターネットのニュースで知った。断水は6月17日現在で経験していない。

②生活必需品の入手状況

家の近所にスーパー・薬局が数軒、少し離れた徒歩圏内にショッピングセンターが数軒あり、必需品はそこですべて入手可能。

③衣食住および生活環境

衣：10月下旬の時点で東京の冬の気温と変わらなくなり、12月～2月ごろには最高気温-20度台、最低気温-35度～40度となった。1番冷えたときには、上は日本で購入したヒートテックやベンチコートで着込み、下は日本のものでは効果がないという話であったため現地で買った防寒下着を着用した。それ以外は日本のものでも重ね着すれば十分に対応できる。

食：12月～2月まで野菜の質がやや落ちた。スーパーやスタローヴァヤ(食堂)に並ぶサラダも明らかに変色したものが並んでいたりした。(一度スーパーで買ったものを食べてお腹を壊した。)その他の食材は1年を通して安定的に供給されていた。物価が安いのでレストランでは300ルー

ブル台で、スタローヴァヤ(食堂)や小さなカフェでは 200 ルーブル台でも十分な食事がとれる。水道水も飲めるとのことだが、飲料水には怖いのでミネラルウォーター(5 リットル 29.9 ルーブル)を利用している。米を洗う時などには水道水を使用しているが、今のところ問題はない。

住：大学から提供された寮の教師用の単身者部屋に 1 人で居住。キッチン、シャワー、トイレも部屋の中にある。また、液晶テレビ、アイロン、冷蔵庫、電子レンジ、断湯時用ボイラーも備え付けられている。ただ、洗濯機は学生居住スペースにある 2 台を学生や寮スタッフと共用で使っている。暖房はセントラルヒーティングが寮内全室に完備されているが、外の気温が-30 度を下回ったときは部屋の中もかなり冷え込んだため、コートを着るなどしてしのいだ。また、2 回部屋の鍵が壊れ、鍵が閉まらなくなったことと鍵が開かなくなったことが 1 回ずつあった。キャンパスから徒歩 3 分ほど。

交通：市内交通はマルシルートカ(ミニバス)(20 ルーブル、市外まで行くものは 30 ルーブル〜)が中心。マルシルートカを使えば市内はほぼどこでも移動できる。他に路面電車(15 ルーブル)、バス(運賃不明)。市外へはシベリア鉄道、飛行機、車が中心。イルクーツクやチタなど比較的近郊の都市以外へは飛行機が週に 1、2 度しか飛ばないなど、アクセスは良くない。

物価：ロシアのほかの地域と比べても安め。

治安状況：特に危険を感じたことはなく大きな事件も起きていない。他の地域で聞くような民族差別も体験したことはない。街に暮らす人の半数近くが日本人と容姿のよく似たブリヤート人のため、他民族と共存することに人々が慣れている印象がある。ただ、ホームレスや不審者に街中や飲食店でお金や食べ物を要求されたことは何度かあった。(すべて拒否するか店員に対応をゆだねた。)

7. おわりに

自身にとって初めて日本語教師として、そして社会人として過ごす 1 年だったが、現地の先生方や職員の方々、同期の先生方や、総領事館の方々、そして日露青年交流センターの方々のサポートのおかげで、不自由なく 10 か月を過ごすことができた。来年度は今年の恩を返せるよう、授業・青年交流活動ともにより精力的に頑張り、少しでもブリヤート共和国の日本語教育や日本との関係の発展に貢献したい。

